

# 日本アルコール関連問題学会ニュースレター No1

2003年2月 発行

## 学会ニュースレター発刊に際して

国立療養所久里浜病院 白倉克之  
日本アルコール関連問題学会理事長

新年明けましておめでとうございます。アルコール関連問題学会  
会員各位におかれまして、ますますご清祥のことと衷心よりお慶  
び申し上げます。

当学会の機関誌も昨年度は第4巻が発刊され、次第に学会誌に相  
応しい内容として整備されて参りました。また今年度より念願であ  
った学会ニュースレターも刊行されることとなり、ご同慶の至りで  
あります。

第20回山形大会(1998年)での特別講演の機会を頂き、従来の仲  
良しクラブ的な学会の体質を改め、アルコール関連問題について衆  
知を結集した討議を積み重ねると共に、「行動する学会」へと学会の  
在り方についての提言をさせていただいた。その後、学会機構の再

編成や経済的な基盤強化を目標に会員各位のご協力を願い今日に及  
んでいる。会員名簿の整備と機関誌の発刊については翌年には曲が  
りなりにも着手することが可能だったが、もう一つの公約であった  
ニュースレターが今般刊行される運びとなり、執行部の1人として  
安堵致しているのが実感である。

この上は内容が豊富でかつタイムリーな情報伝達が可能となり、  
会員諸氏に発刊が待たれる、魅力あるニュースレターとなるように  
期待したい。

発刊に際してご尽力いただいた小杉副理事長、丸山事務局長、編  
集委員会の方々、地方部会の執行部の皆さんに改めて心より感謝す  
る次第である。

## 緊急アピール！

### 日本アルコール関連問題学会会員諸氏へ

### “新たな医師臨床研修制度の在り方について(案)”への提言 アルコール依存症を必須項目A疾患にランク付けすることへの要望！

平成16年度から始まる新医師臨床研修制度に関しては、平成14  
年9月精神科研修の必須化が決定し、厚生労働省医制局医事課か  
ら“新たな医師臨床研修制度の在り方について(案)”が提出され  
ている。

アルコール依存症は、この中で臨床研修の到達目標の中の経験  
目標として、掲げられた7つの精神神経疾患の内の一つとして研  
修対象に加えられている。

また、研修対象を、重要度に応じて必須項目A、B疾患にラン  
ク付けを行っている。しかしながら、研修対象に加えられた七精  
神疾患の内、アルコール依存症のみが、A、Bいずれの必須項目  
からも外されている。これでは実質的に研修はしなくても良いこ  
とになる。

したがって、日本アルコール関連問題学会として、以下の理由  
で、アルコール依存症を必須項目A疾患に“改正”されることを  
強く要望する。

記

- (1) 240万人前後と目されるアルコール関連疾患の中核であるア  
ルコール依存症の知識は、臨床家にとって必須のものである。
- (2) 救急医療、内科医療などのリエゾンの問題として、他の精  
神科疾患に比して、もっとも必須の知識と経験を必要とする  
疾患である。
- (3) アルコールに起因する疾病のために、国民医療費の6.9%が占  
められている。

A疾患へのランク入りを目指し、当学会員皆様方の強い後押し  
とご協力をお願いする。

なお、本要望書(2月7日付)は当学会理事長名で、すでに厚  
生労働省医政局および精神科7者懇談会に提出してある。

## 各ブロックの活動状況

## 北海道ブロックの活動状況

定例の学術研修会が平成 14 年 5 月 11 日から 12 日にかけて、小樽天狗山の上にある山荘にて「アルコールネットワークを考える」と題して行われました。数年振りの合宿形式でしたので 100 人にも満たない研修会でしたが、シンポジウム、夜間集会、グループ討議などを通して中身の深い研修会となりました。特にプログラム最後の全体会は、朝のやわらかな日差しの中なかで自助グループにも似たダイナミクスを感じました。参加者はそれぞれが何かを得て帰路についたことでしょう。他には平成 14 年 9 月 12 日に札幌医科大学医学部神経精神医学講座との共催によるフィンランドのアンデレ・ソーランダー氏の「フィンランドにおける児童精神医学～ネットワークセラピー、依存症の親を持つ子ども達への関わりについて～」と題した講演会が開かれ、好評のうちに終了しました。

## 第 14 回「東北アルコール関連問題研究会」報告

総ては、第 24 回「日本アルコール関連問題学会」の会場で、何人かの東北のメンバーから、「東北アルコール関連問題研究会の青森開催はあるんですか？」と訊ねられた事に始まる。実行委員会の編成は 3 月から始まっていたものの、「第 14 回」目にして青森開催 3 回目という数字は、いくばくかの不安を惹き起こした。ならば、当研究会の原点に立ち戻り、青森という「東北」最北端の地と「温泉と紅葉」が囂し出す、ある種の「思い入れ」だけが、「肌触れ合うも温泉」から、「せめて顔にポット紅葉色がさしたらインデネの」という世界をどう演出するしかない、と腹を括った。

基礎講座での一方通行よりは、それぞれが、それぞれの学際主義的立場で「考え」、「学びあう」、「関係性」のなかで、「アルコール関連問題」を巡るエポック・メイキングな「時」を紡げれば上出来と念じました。今回のテーマ「であい、ふれあい、アディクション」とは、そんな人たちが「出会う」ことで「触れ合う」局面の諸相が引きずる「関係性」として用意された。「あなた」と「わたし」が、こうして昨日「そこ」に在ったように……。前振りは、「君は古牧温泉の池の、河童たちの歓声を聞いてみたいと思いませんか!？」である。

そして、集まった。なんと総勢 157 名も！青森県内 85 名、県外 71 名（福島 9、山形 11、宮城 16、岩手 28、秋田 7）の参加であった。時代は、河童の川流れすらひきおこしかねない速さであるにもかかわらず、「思いの丈」は健在であった。集まったメンバーの苗字は判っていても、名を訊けば微妙な読み違いをしていたり、「ア

後援事業としては日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部主催のアディクション基礎講座があり、広報活動では、アルコール保健医療と地域ネットワーク研究会でもニュースレター第 1 号が発行されています。併せてホームページも作成されましたのでどうぞご覧ください。アドレスは以下の通りです。  
[http://www.sapmed.ac.jp/sapmed/npsy/lecture\\_research/alnet/index.html](http://www.sapmed.ac.jp/sapmed/npsy/lecture_research/alnet/index.html)

事務局：医療法人北仁会旭山病院 医局内  
代表幹事 山家 研司  
〒064-0946 札幌市中央区双子山 4 丁目 3-33  
TEL:011-641-7755  
FAX:011-631-5512

ディクション」が風邪なみに鼻音になっていたりの不手際はあったが、許してください。あの日、あそこに集まった河童たちの歓声は何よりも結果を由とし、懇親会のあの盛りあがり、いま、当分はこの会の語り種とはなるでしょう。

しかし、本質はそのまんまなのに、余りにもアルコールを巡る考えや登場する場が変貌もした。端的には、「治療する/治療を受ける」という勾配関係から、双方が紡ぎだす医療ないしは告知や人権と責任の問題として、否、「言葉」や「行為」の問題としても問われている。この精神保健・医療・福祉の変革の時代に、「医療」のみに拘泥し、下手に「してあげる」言葉かや行為よりも、地域でいかに当事者やそれを取り巻く人たちと臨床的地平を創造していくかが重要なのであろう。マニュアルがあっても、魂のない言葉や行為は、虚しい足踏み空を切るだけである。その意味では、「アルコール」の呪詛から解き放たれて、「嗜癡（アディクション）」の世界へと、我々はやっとなに足を踏み込んだということになるだろうか。それ故、今、飛びかう言の葉が危うい。

大会長 藤代健生病院 津川 憲次  
事務局：東北会病院 石川 達  
〒981-0933 仙台市青葉区柏木 1-8-7（東北会病院内）  
TEL:022-234-0461  
FAX:022-274-2643  
E-mail: [tohl-ishi@hotmail.com](mailto:tohl-ishi@hotmail.com)

## 関東甲信越アルコール関連問題学会の活動報告

永らく休眠状態であった関東甲信越地区のアルコール関連問題学会を再興すべく、平成 14 年 4 月 27 日（土）に東京国際フォーラムにて「アルコール関連問題の新しい治療を求めて」というメインテーマでシンポジウムが開かれた。シンポジストは澤山透（国立療養所久里浜病院）、岩崎正人（岩崎メンタルクリニック）、後藤恵（成増厚生病院）、手島正大（芳野病院）の 4 名の先生方で、約 80 名の参加があった。

澤山先生は久里浜病院での認知療法の経験を話され、後藤先生は人格障害や過食症などの合併症のあるアルコール依存症に対する個別の治療の経験について話された。岩崎先生は薬物依存やギャンブル依存を含めた嗜癡という概念で治療全般について話された。私、手島はアルコール依存症の概念と、脳に対する生理学的な影響を話し、飲酒渴望との関連で新たな治療についての方向性を述べた。フロアからも活発な発言があった。

さらに、活動を継続すべく、11 月 10 日（日）に国立療養所久里浜

病院で「アルコール依存症に入院治療は本当に必要か」というメインテーマで 2 回目のシンポジウムが開催された。シンポジストは桑原寛（神奈川県精神保健福祉センター）、和泉貞次（川渡病院）、村山昌暢（赤城高原ホスピタル）、高木秀（鎌倉保健福祉事務所）、岡田正彦（栃木県立岡本台病院）の 5 名で、約 70 余名の参加があった。和泉先生はアルコール症専門病棟の立場から、村山先生はアルコール症専門病院の立場から話された。高木ワーカーは保健福祉事務所の立場から、岡田ワーカーは病院ワーカーの立場から話をされた。桑原先生は行政の立場から法的な問題も含めて話しをされた。

フロアを含め活発な討論が行われ、最近メンタルクリニックの開業が増え、ややもすると入院治療が余り必要ないような論もあるが、アルコール依存症については、病態の進行の具合や合併症もさまざまであり、入院治療が必要なケースも多く認められるため、各々の病態により入院治療の必要性が確認された。

事務局：医療法人社団正心会 芳野病院  
代表 手島 正大  
〒194-0203 町田市図師町 2252

TEL: 042-791-0734  
FAX: 042-793-4929

## 東海地区の活動報告

### 愛知県

県精神保健福祉センターにおける愛知県アルコール問題関係者会議では、アルコール問題に限らず薬物問題や虐待についての勉強会や事例検討を定期的に開催している。今後は、名古屋市精神保健福祉センターと共催でアルコール関係者会議が開催される予定である。平成16年の日本アルコール関連問題学会を東海地区で開催される。多くの方々への参加をお待ちしています。

### 岐阜県

県精神保健福祉センターを中心にアルコール・薬物問題に関する情報交換や啓発活動を行っている。ダルク開設の動きがある。

### 静岡県

県精神保健福祉センターや個々の医療機関がそれぞれの立場でアルコール問題に取り組んでいる。

事務局：西山クリニック 雲川 伸正  
〒460-0002 名古屋市中区丸の内 3-6-4  
TEL: 052-972-6565  
FAX: 052-972-6566  
E-mail: [nisiyamacl@sepia.ocn.ne.jp](mailto:nisiyamacl@sepia.ocn.ne.jp)  
理事 西山クリニック 西山 仁

## 北陸地区の活動状況

富山、石川、福井の3県では県の心の健康センターなどが主催して、アルコール・薬物依存症の研修会、アディクションの講演会などが開かれている。富山県では、富山市民病院の精神科が中心となり富山県アルコール関連問題研究会が2ヶ月に1回開かれている。事例検討、関連学会等の紹介などが行われている。石川県では、有志が集まりアルコール依存とアディクション勉強会を4ヶ月に1回行っている。事例検討、関連学会等の紹介、自助グループとの交流会などを行っている。

事務局：ひろメンタルクリニック 奥田 宏  
〒920-0026 金沢市西念町 3-1-32 西清ビルA-1  
TEL: 076-234-1621  
FAX: 076-234-1620  
E-mail: [h-okuda@swan.ne.jp](mailto:h-okuda@swan.ne.jp)

## 関西ブロックの活動状況

今年度は大きな取り組みとして第24回日本アルコール関連問題学会が5月17、18日大阪南海サウスタワーホテルにて開催された。内容面では特に自助グループとの連携協力のあり方、それぞれの実践の再検討、教育の問題に注目した大会となった。開催にあたってご協力をいただいた全国各地の皆さんに改めて御礼を述べたいと思う。

2点目として、2月にDr.ヴァリアント国際交流講演会を京都で開催した。関西AAからの呼びかけに応じて関西アルコール関連問題学会主催で「長期フォローアップ研究が教えるアルコール症の回復と援助」というテーマで行った。

3点目は、昨年度より開始しているカレッジコースを、今年度は同志社大学と共催して行った。今後対人援助職に就こうとする学生

を対象に行う1日研修会で1年毎に各府県で持ち回りしていく計画で取り組んでいる。

また今年1月には総会をもち、「関西アルコール関連問題学会のこれから」について討議を行ない、新体制をスタートさせていく予定である。

事務局 リカバリーハウス いちご 佐古 恵利子  
〒546-0022 大阪市東住吉区住道矢田 3-4-3  
TEL: 06-6769-1517  
FAX: 06-6769-1517  
E-mail: [E-mail:eriko-sako@nifty.com](mailto:E-mail:eriko-sako@nifty.com)  
(但近々新体制になるため、変更予定です。)

## 中国四国アルコール関連問題研究会からのニュース

平成14年度の中国四国アルコール関連問題研究会は第20回を迎え、下司孝麿(下司病院院長)先生のお世話人で、平成14年9月7~8日、高知市は国民宿舎桂浜荘にて開催されました。1日目は5例の症例検討と教育講演「アルコール依存症と内科疾患」(山本道也・下司病院副院長)教育講演「アルコール依存症と睡眠」(川田誠一・清生園病院)2日目には特別講演「依存症からの回復プロセス—大人にとってのSpiritual Growth—」(洲脇寛香川医大教授)と、パネルディスカッション「女性のアルコール依存症」がシンポジスト5名、「高知県における女性飲酒調査」(家保英隆・高知県健康

増進課長)「単身アルコール依存症患者の背景」(山下陽三・渡辺病院)「オリーブ会の取り組み」(中村照江・香川県精神保健福祉センター)「ACの会への取り組みから」(神山良子・ティアーズオブジョイ世話人)「アルコール治療プログラムとその一例」(森敬子・こなんホスピタル)の各発表と討議が、司会山崎正雄・高知県精神保健福祉センター所長のもとで行われました。平成15年の第21回は岡山県で行われる予定です。

岡山県慈恵病院では、院内断酒例会が30周年を迎え、記念として昭和40年に同院で行われた松村春繁氏(故・全断連名誉会長)の講

演を冊子(CD版もあり)にして関係者に配布しています。希望者は事務局まで連絡してほしいとのことです。

その他の各県の活動は例年通り行われています。

事務局：慈生病院 堀井 茂男・藤本 康之

〒702-8508 岡山市浦安本町100-2

TEL:086-262-1191

FAX:086-262-4448

## 九州ブロックの活動状況

毎年春に九州各県と北九州市の持ち回りで「九州アルコール関連問題学会」を開催しております。昨年3月には初めて沖縄で第14回の学会を開催しました。平成11年度からは報告内容を九州アルコール関連問題学会誌として150ページ程の雑誌を毎年発行しております。各県の色をモチーフにした派手な装丁の雑誌です。今年は、5月30日と31日の両日に九州ブロックの担当で宮崎のシーガイアで日本アルコール関連問題学会を「アルコール・薬物・暴力に頼らない生き方」の基本テーマで開催します。現在宮崎県の精神保健福祉センターを中心に着々と準備が進んでいます。外相サミットが行わ

れた格調高い会場で、周囲は観光にも最適なところですので。多数の皆様のご参加を心待ちにしております。

事務局長：国立肥前療養所 村上 優

〒842-0192 佐賀県神埼郡東脊振村三津160番地

TEL:0952-52-3231(内線340)

FAX:0952-53-2864

E-mail: [takefumi@hizen.hosp.go.jp](mailto:takefumi@hizen.hosp.go.jp)

## 第25回日本アルコール関連問題学会(第15回九州アルコール関連問題学会)開催のお知らせ

第25回日本アルコール関連問題学会は、平成15年5月30日(金)・31日(土)に宮崎市のワールドコンベンションセンター・サミットにて開催いたします。会場は、先の先進国首脳会議サミットの外相会議の会場にもなったところで風光明媚な観光リゾートゾーンです。なお第15回九州アルコール関連問題学会も同日併せて開催される予定です。

今回のメインテーマは「アルコール・薬物・暴力に頼らない生き方」とし、これにそって以下のとおり特別講演、基礎講座、各分科会を企画しております。本学会がアルコール医療とその関連問題対応への新たな展望につながることを願い、多くのご参加を心よりお待ちしております。

平成14年12月 第25回アルコール関連問題学会

学会長 中林 永一

(プログラム内容)

平成15年5月30日(金)第1日目

基礎講座1 「アルコール依存症とは何か?」

基礎講座2 「アルコール依存症の予防と早期発見(初期介入)について」

分科会1 「アルコールを含む依存性薬物の害を子どもたちにどう伝えるか」

分科会2 「暴力被害に対する支援 ~現場で必要なこと~」

分科会3 「アルコール症患者の社会復帰」

分科会4 「アルコール問題と薬物療法」

分科会5 「外来治療のスタンダードとは?」

分科会6 「アルコール治療・認知行動療法の可能性と限界について」

分科会7 「アルコール問題・地域における保健師の活動」

分科会8 「薬物問題について」

分科会9 「アルコール看護について」

分科会10 「司法精神医学とアルコール問題」

平成15年5月31日(土)第2日目

特別講演 「アルコール医療・保健・福祉の今日的課題」(仮題)

講師 白倉 克之 先生(国立療養所久里浜病院院長)

[学会事務局] 宮崎県精神保健福祉センター

〒880-0032 宮崎市霧島1-1-2

TEL:0985-27-5663

FAX:0985-27-5276

E-mail: [nwatanab@pref.miyazaki.jp](mailto:nwatanab@pref.miyazaki.jp)

担当:渡邊 尚孝

## 編集後記

本紙は学会ニュースレターの創刊号です。短期間のうちに、編集委員会の意図した原稿が集まり、無事に発刊を迎えることができました。関係者の皆様には心からお礼申し上げます。当面は学会誌を補完すべく1年に1回の発刊となります。本ニュースレターに関する様々な意見や掲載したい話題があると思います。その折には久里浜病院の学会事務局までご連絡ください。

編集委員 小杉 好弘(委員長)

遠藤 太郎

樋口 進

堀井 茂男

山崎 京子